



二〇一九 春号  
海禅寺新聞 Vol.21

海禅寺新聞 第21号

ひと雨ごとに寒さもゆるみ、日差しが春のおとずれを告げる頃となりました。杉花粉もすでに元氣よく舞い散っているようです・・・ともあれ自然界の芽吹ききの雰圍気に、自ずと心躍る季節。檀信徒の皆様にとりまして、よりよき新しい季節でありますよう、至心にお祈りしております。

生きる力 vol.96 送付

真言宗智山派で、檀信徒の皆さまに向けて作成をしている情報誌『生きる力』を送りいたします。今回の特集は「お寺の行事に参加しよう 両祖大師を知り報恩の祈りを捧げる」です。「両祖大師」とは真言宗を開いた「弘法大師空海さま」と、真言宗智山派へと大きな教えの流れを作られた中興の祖「興教大師覺鑿（かくぼん）さま」のお二人を指します。他にも教化センターで工夫をこらした記事が各ページに掲載されています。ぜひ一読ください。

春彼岸会 中日法要のご案内

恒例の春彼岸会法要を海禅寺本堂でお勤めいたします。また当日は、今回の『生きる力』9ページに掲載がありますように、『正御影供』（しょうみえく）の日になります。これは弘法大師空海さまが人間としての

生を終えられた日です。当日の話題といたします。どうぞご家族そろってお出かけください。（申込不要）

日程：平成31年3月21日（木・祝）  
時間：受付 午前10時  
法要 午前10時30分

※法要終了後は、皆さんで茶話会をいたします。和やかな時間を一緒にしましょう。

※彼岸会中日法要の供養塔婆をご希望の方は、3月16日（土）夕刻までに電話またはファックスで、寺にお申し込みください。（供養塔婆料 一基 3000円）

電話 ・・・0268-2212972  
ファックス・・・0268-261147

境内整備のご報告

昨年より進めておりました境内整備の工事がおおよそ完了いたしました。該当箇所は次の三箇所です。

- ①、参道下の石門
- ②、参道西側の土塀
- ③、参道の敷石

修繕後の各所の様子は、下の写真をご覧ください

着工前の参道石門周辺の様子



①まず、参道石門の横棒が大変に劣化しており、落下の危険がありました。そこで横棒を取り外し、縦柱もバランスを考慮して少し短くしました。また石門の足元から道路に繋がるコンクリートが劣化していたため、合わせて新しい石と取り替えました。②そして参道西側の駐車場と参道との境目はこれまで高低差があり、雨天時は参道の土が流れ出してしまい、また石門を通らず脇から侵入が可能なため、地面が荒れてしまいがちでした。その対策と景観整備のため、南北の一部に、土塀を新設置しました。③そして時の経過とともに参道敷石の凹凸が大きくなり、つまずいてしまうご高齢の方、小さいお子様が多くおられました。このままではいけないと、安全対策のため、全ての敷石を平らに敷き直しました。

今回の必要経費につきましては、ご寄附を募る予定はありません。寺で準備をし、各業者にお支払いします。ところで最近、海禅寺の参道は「上田の知る人ぞ知る桜の名所である」というお声を聞く機会が増えてきました。大変に嬉しいことです。ぜひ檀信徒の皆さまも、桜の季節に海禅寺まで足をお運びください。参道の他にも庫裏玄関前のしだれ桜もとても綺麗です。



しだれ桜を支える支柱も新設しました





おねがい

### 第8回 聖天祭 開催決定

年々賑わいを増している聖天祭は今年で8回目となります。今年も聖天さんのご利益にあやかり、人と人との様々なご縁が芽生えるよき一日となるよう、さまざまな企画を準備中です。

そして今、実行委員会では、**お祭りをお手伝いいただける方々を大募集中**です。内容は、会場準備・片付け・駐車場係・会場案内見回りなどですが、ご無理のない可能なお時間の範囲内に限ってでも構いません。お祭りを作り上げる喜びを共有していただき、お檀家の皆さん、そして有志のスタッフの皆さん同士が、よい仲間の輪の一員として広がっていくことを願っております。ぜひお気軽にお問い合わせください。

※お祭り終了後、別日に慰労会もごさいませ  
※お祭りの詳細は、追ってお知らせします

#### 【聖天祭日時】

日程：2019年5月19日（日）

時間：午前10時～午後3時

入場：無料

よろしく  
お願いします

しょうてんまつり

# 聖天祭

## スタッフ大募集



### 人形供養の今を考える

3月3日は「桃の節句」ひな祭り。お雛様を飾り、女の子の健やかな成長を祈る、個々の宗教信条を越えた、国民的な行事です。このひな祭りの前後、海禅寺にはお役目を終え、供養をして欲しいと多くの雛人形さんたちが集まってきました。



海禅寺で昭和60年（1985年）より毎年11月23日（勤労感謝の日）に開催している人形供養会（にんぎょうくようえ）は、今年で35年目を数えます。長年大切にされ、大切なお子様の生活を見守ってきたお人形は、もはや単なるモノではなく、ご家族の様々な思いや心を分け宿した、かけがえない存在であると思います。しかし時の経過と共に、その役割は終わりがやってきます。「物事は、始めよりもその終わり方にかこそ重きを置くべきである」とは先人の言葉です。これまでに感謝を捧げ、そしてこれからの人生の歩みへ決意にも似た意思を定める場、それが人形供養会の行事であり、私たち僧侶はお勤めの中で、人形に深い思いを寄せる皆さんお一人お一人の代弁者であるべく祈りを捧げてきました。

これまで長野県内では、こうした人形供養をする場があまりなく、南信や北信から、または県外、遠くは京都や北海道からお人形が届くこともありました。受付の際にはお人形に託す思いを、涙ながらに語っていかれる方がおられたり、手紙を添えてくる方もいらっしゃいます。そうした皆さんの



お気持ちに、受け入れる寺側も多くの学びをいただけてきました。

さて、そんな海禅寺での人形供養を巡る事情がここ数年、大きな変革の時を迎えています。まず一つはお子様への節句に、伝統的なタイプの雛人形や五月人形を求める家庭が大幅に減少し、かつ少子化の影響と相まって、お人形が売れなくなってきました。これまで海禅寺の人形供養会は、上田市内の老舗『人形会館 松葉彌』さんによる準備等の全面的な御協力があり、開催ができていました。しかし昨今のお人形販売事情の大きな推移を受けて、お手伝いが難しくなり、寺独自の行事として独立せざるを得なくなりました。

もう一つは、近隣の葬儀屋さんによる人形供養行事の開催です。葬儀業者は葬儀を行うことで収益を得る業態ですが、高齢化社会による昨今の身辺整理・断捨離ブームに目をつけ、人形供養を一つの手段として取り入れているようです。無料で不要になったお人形を受け付け、イベント内で互助会の勧誘をしたり、葬儀全体の相談事に応じる場を設けています。本場の目的は、来場者に、時が来たらその葬儀業者で葬儀を行ってもらうための道をつけることでしょう。ここ5年程、これまでと明らかに海禅寺で受け付けるお人形の数が減っているのは、こうした動きと無関係ではないと感じています。

これらの変化を受けて、今後について様々に、検討を重ねました。結論として、供養を求める方々がいらっしゃる限り、これまで通り、当初の理念を胸に据え、たとえ規模が小さくなったとしても丁寧な人形供養会を続けようということにいたしました。ただし人形供養行事は、これまで皆さまからいただく供養料を全額運営

費用に活用させていただき、行事を何とか執行してきました。その中で、あまりにも寺からの持ち出し費用が大きくなったしまった場合は、次の段階と方法を再考したいと思えます。兎にも角にも、寺という存在は、社会の中で、ある種の公益性があるからこそ存在しているものであります。原点を見つめつつ、この一事をきっかけに寺全体の有りようも見直して参ります。

### 美蓉保育園へ

昭和28年より、海禅寺敷地内で個人立として始まった美蓉保育園。現在では海禅寺の山号である大智山を用いた「大智会」という社会福祉法人格となり、住職が園長を、副住職が副園長を務め、150人を越える乳幼児期のお子様達が通園しています。さて、昨今の幼児教育を巡る大きな変化を受けて、「美蓉保育園」は「幼保連携型認定こども園 美蓉園」として移行することになりました。これは、これまでの保育園の役割に、幼稚園の機能も合わせ持った施設となることを指しています。つまり社会福祉法人でありながら、学校教育法の教育を行う教育施設として生まれ変わります。お寺へお越しの際、これまでの保育園の看板から、こうした表記への変更が見られるようになりますが、どうぞご理解ください。

### 編集後記

今回はご好評の『海禅寺数珠つなぎ』の連載はお休みさせていただきました。

さて、道々に咲く野草の花、その可憐な美しさを愛でる散歩が、気持ちのいい季節ですね。

しかし春といえば花粉も気になるころ。「花」なのか「鼻」なのか、、、とため息も出てきますが、季節は必ず巡ります。今を味わいましょう。ハクシオン。



発行元 海禅寺